

# 京交山岳部報

## 今月のテーマ《新雪の山へ》

〔第1859回例会〕

府県境シリーズ

### 頭巾山★★

日時 12月1日(日)

集合 壬生 AM8:00出発

コース 京都-和知-小和木

91年のシリーズの最後を名山で締めたいと思います。天候によっては新雪を踏めるかも。

担当者 岡田茂久(☎811)

備考 地図, 坂本, 丹波大町(1/2.5万)

〔第1861回例会〕

### 高雄山(日本山岳誌)

日時 12月10日(火)

集合 京都駅奈良線 8時12分

コース 山城多賀駅…茶替山IV△…高雄山…南谷川…山城多賀駅

地形図 奈良(田辺2.5万)豆藤栗毛

担当 伊藤潤治(☎463-4936)

〔第1862回例会〕

府県境シリーズ

### 鴻応山・湯谷ヶ岳★

日時 12月15日(日)

集合 壬生 9:00

コース 亀岡-柚原…鴻応山…湯谷…湯谷ヶ岳

担当 奥村弘信(☎791-7450)

備考 マイカーで行きます。

↘ 翌日の羊年最後の山は、大きな雌羊山(美女山)で締めたいと思います。当日参加も可能です。

(JR園部駅~JRバス桜山/三の宮行 琴滝下車)

〔第1860回例会〕

### 三国岳(久多)★

日時 12月8日(日)

集合 壬生 AM7:30

コース 花背峠-久多峠-久多-三軒屋…三国岳

担当者 津田 実(☎461-1689)

〔第1863回例会〕

### 竜王ヶ岳・紅葉山・筏森山

日時 12月17日(火)

集合 山陰線花園駅 7:30乗車

コース 八木駅…山階…竜王ヶ岳…紅葉山…氷所…北広瀬…筏森山…八木駅

地形図 京都西北部(豆藤栗毛)

担当者 津田 実(☎461-1689)

備考 バス便があれば利用するかもしれません。

〔第1864回例会〕

『納山祭』

### 琴滝・美女山(482.2m)★

日時 12月21日(土)~22日(日)

集合 21日 14:00壬生出発

22日 9:00テント出発

コース 京都-園部-須知-琴滝

担当 岡田茂久(☎811)

和田良一(☎692)

井戸澄夫(☎756)

地図 園部1/2.5万

備考 テント泊りのマイカー山行。

希望者は20日までに担当まで。久しぶりにテントの中で飲み放題, 食べ放題, 寝放題, 喋り放題で一晩ゆっくりしたいと思います。↖

〔第1865回例会〕

## 元日登祝 (オオツク・312m)

日時 平成4年元旦  
集合 平岡八幡宮前 (右京区梅ヶ畑)8:30  
コース 平岡八幡宮…清水…タカヤマ…オオツク…高雄小学校前  
担当者 伊藤潤治 (☎463-4936)  
地形図 京都西北部

〔第1866回例会〕

## 初登山 庚申山★

日時 平成4年1月5日(日)  
集合 壬生 8:30  
担当 岡田, 鷺見, 吉田  
備考 山頂でぜんざいをします。  
各自モチ1~2個持参のこと。

## 〔新年会兼1月の集会予告〕

日時 平成4年1月9日(木) P.M. 6:30  
場所 松尾橋 網船「小島」  
担当者 鷺見  
費用 3,000円

## — 今月の集会 —

日時 12月10日(火) P.M. 6:00  
場所 厚生会館 4F大教室

## — 企画運営委員会 —

日時 12月20日(金) P.M. 6:30  
場所 厚生会館 4F大教室



## 地球温暖化防止

岡田 茂久

地球温暖化を初め、オゾン層破壊、酸性雨等地球環境の悪化による危機が叫ばれてから久しい。毎日の様にどこかの新聞に、この問題が掲載されない日は無いと言えるぐらいである。中でも特に問題視されているのが地球の温暖化である。

地球の温暖化の元凶とされているのが、二酸化炭素(CO<sup>2</sup>)一般にいう炭酸ガスで、これは主に石灰、石油等の化石燃料や木材の炭素が燃焼するとき、酸素と結合し大気に放出される。これが成層圏(地表20km~40km上空)に滞留し、温室のガラスの様に地球を包み込む、いわゆる温室効果といわれるもので、このためどんどん地球が温暖化していくというものである。

最近、特に目立つ世界的な異常気象、砂漠化の進行等の原因は全てこのCO<sup>2</sup>の増加によるものといわれ、CO<sup>2</sup>を吸収し酸素を放出する熱帯雨林の大量伐採がこれに拍車をかけている。

CO<sup>2</sup>が現在の増加量のままでいけば、21世紀前半には18世紀後半の産業革命以前のCO<sup>2</sup>の量の約2倍となり、地球の温暖は5度近くも上昇することになるという。人類の活動が活発になればなるほど、CO<sup>2</sup>の量が増えるという皮肉な現象になっているところから、今や、先進国の生活レベルを発展途上国まで下げる必要があるという人もある。

もうひとつの地球の温暖化の原因にメタンガスがあげられる。発生源として水田や畑、ゴミの埋め立て地、家畜の糞尿、家畜のゲップまでが指摘されている。魔女狩りの感じが無くもないが、メタンガスは温暖化を招く赤外線吸収率が、CO<sup>2</sup>の100倍で濃度が低くても温暖作用が強いというから無理もない。

地球の温度上昇がもたらす弊害は色々とあげられている。極地の氷山が溶けて海面が2～3 mも上昇し、海岸線沿いの世界の主要都市は半分が水没するという説や、WHOの報告書では蚊や病原虫の繁殖が促進され、マラリアやデング熱等の熱帯病に高緯度まで汚染されるという。その駆除に農薬が大量に使用される結果は、肉、魚、野菜までが農薬汚染され人間にとって深刻な状況を引き起こすのである。地球の生態系は確実に破滅に向かって進行している。過去、何万年もかかって自然に適合してきた人類が、21世紀前半までの短い期間に厳しい環境に適合できるようになるとはとても思えない。ジオカタストロフィ（地球破滅）。地球は後99年で滅亡するという説も出てきているのである。

いまや「自然を守ろう」だけでは環境の保護はできない状況になってきているともいえる。

もちろんCO<sup>2</sup>やメタンガスを出さない研究、無くす研究、それにCO<sup>2</sup>やメタンガスをリサイクルし、有効に利用してはという研究もされてきている。しかし、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨等々。科学技術だけで人類破滅の危機は防げるだろうか。

しかし、わが地球の自然による自浄化作用は偉大である。我々、一人一人が「自然を守る」ことによって、自然による自浄化作用を助け、有害物質の放出を押さえることにより、ジオカタストロフィのその日を少しは延ばすことは可能はずである。

とはいうものの、先般のジーゼル車を法律によって規制するという新聞発表は衝撃であった。

行動範囲を大いに広げてくれ、多人数の移動に便利で、燃料費も安く済み、最近の山行きにおいて随分重宝しているのに、いまやCO<sup>2</sup>の排出機とまで名指しされてしまった感の、自然を愛するジーゼルワンボックス車のオーナーとしては、まさにハムレットの心境である。今日も尻がこそばい感じで車を転がしている。

【第1851回例会】

## 比良シシ岩、登攀とリトル比良縦走

姫路岳友同人会・交流登山

津 田 実

今日は何時もお世話になっている姫路岳友同会の方々と合同で岩登りと、縦走の二組みに別れて交歓山行を行うとのこと。姫路の人達とは冬の野沢以来で、お会いするのが楽しみだ。

また、宿舎も比良山岳センターが借りられ、これは昭和56年10月の滋賀国体の時に建てられた仲々立派な建物である。

JR和邇駅前のスーパーで夕食の材料を仕入れたが、何しろ20人分の寄せ鍋となると大変な量で7人がテンテコマイで店内を駆け巡る始末。センターの調理場も大騒ぎで食事の用意をする。小生は「男子厨房に入らず」と康一君と付近を逍遙、遠来の朋を待つ。（本当は間に合わないの

で放りだされ) その夜の交歓会は仲々のもので海外の山を目指す手練れ者が多数いられたのには  
瞠目。

当日、到着組を待ってさて出発となる頃、小雨がパラッキ機先をそがれたが、そこは山では剛  
の者の集団、意にかいせず大倉さんに音羽の大炊神社まで送って貰い、雨具を付けて山道を歩き  
だす。

このコースは涼峠から二回歩いているが反対側からは初めて、オマケニ姫路のベテランを案内  
するとなると一寸シンドイ。幾つもある枝道を石仏に導かれ無事に岳観音の本堂に到着する。天  
候は心配した程もなく琵琶湖が見えた。

小憩の後、雨具を脱いで急登に取り付く。左側にガレを見ると石窟がありなかの地藏さんをお  
がむと岳山、山頂である。白坂の登りは終わり本番の縦走に移る。

まずは鳥越峰702m目差して登りだしたが肝心のオーム岩を見落として仕舞い岩阿沙利山Ⅲ  
△686mの取り付きで昼ご飯にする。本当は三角点までいきかかったが。

岩阿沙利山から滑り易い杉の植林帯の急坂を降りると鶴川越林道に出る。以前は縦走路が林道  
に遮断されて先が分からず慌てたが今日は、比良遭対の標識が林道の両側に建てられていてなん  
なく通過。嘉嶺ガ岳から最後の登り滝山703mにかかる。頂上手前の岩で後続者を待ち、熊笹  
を掻き分けて下って行くと前方が明るくなり、見覚えのある寒風峠につく。時間の関係で休憩な  
し。

オトシの湿原のなかに古い苔むした小さい石標があり、左はたみち、と彫ってあった。畑とは、  
蛇谷ヶ峰の登山基地、畑聚落のことか？。北小松から黒谷を経て行く古街道だったのかも。

涼峠で休んでいると吉田君から現在位置の問い合わせの無線が入り、センターで「登攀組が待  
っている」とのこと。荒れた登山道をかけ降りると、林道終点まで田村君が迎えにきてくれてい  
た。

姫路の岳友を送り、帰路につくと同時に物凄い豪雨になってきた。もう少し山で愚図愚図して  
いたらこの雨に逢っていただろう。

お世話をくださった吉田さん、大倉さん、ありがとうございました。

91:10:5~6 曇り後雨

参加者 姫路岳友同人会 8名  
京交山岳部 吉田 f 2, 大倉 f 1, 岡本, 台川, 松田,  
田村, 西尾, 山岡, 原田, 津田

大木秀実君 一周忌追悼登山 H.3. 10. 26

## 仰木峠から大尾山

井戸 澄夫

大木君が亡くなって早や1年が経った。(命日は10月10日)思いやりがあり、気くばりを忘れない人だただけに、多くの人々が彼の死を惜しみ、その遺徳を偲んでいる。一周忌を機に、彼の追悼登山をしようということになり、できるだけ多くの人が参加できるような山ということで、大原から<sup>オウギ</sup>仰木峠-大尾山へ行くことになった。

この一年間に大木君を追悼するための登山を、私としては3回企画した。ひとつは荒島岳であり、あとふたつは剣岳-仙人池-阿曾原のコースである。しかし、いずれも悪天候のため、最終の目的を達することはできなかった。単なる悪天候のためと片づけ難い、何か因縁じみたものを感じる3度の山行であった。

しかし、一周忌を過ぎた今回の追悼登山は、18名もの多数の参加があり、天候にも恵まれて、まずは追悼登山として意義深い1日となったように思う。

A. M. 8:00 壬生に13人が集合。車3台に分乗し、一路大原へ。途中、出町柳で3人を乗せ、野村岐れのバス停で2人待っていて、合計18名となった。少し上ったところにある民宿「うえなえ」の前に車を置き、東海自然歩道を仰木峠へ向け歩く。道はきれいに整備されており、散歩道といった雰囲気である。小一時間で峠へ着いた。さほど広くはないが、明るい雰囲気をもった峠である。少し滋賀県側へ下ると、琵琶湖の南湖が一望に見わたせる。すぐ間近かまで林道がきており、滋賀県側からならば、車を降りて10分程でこれそうである。峠に偶然居合わせた2人連れにカメラを頼み、一同、「大木秀実君一周忌追悼登山」と書いた横断幕を前にして写真撮影した。

大尾山への道は尾根上の植林帯のゆるやかな道で、ところどころにクマザサが密生している。2つ小ピークを越して、1時間20分で大尾山二等△681.4に到着した。地図のコースタイムでは2時間となっているが、ちょっと甘いようである。山頂はさほど広くなく眺望もよくない。もう少し眺めのよいところで昼食をとろうということで、尾根を更に北向きに下降し、鉄塔の下の伐採地に出た。ここからは西側の眺望がよく、焼杉山から天ヶ岳の方向がよく見え、花背峠にある電波塔も見えた。

昼食はいつものながらの豪華絢爛たるディナーである。特に、本日は、大木君の供養にと、鷺見夫人が白玉だんごを作ってくださった。また、伊藤先輩は香をたいて、台湾特製の茉莉花酒を供えてくださいました。さすがに諸先輩は、本日の登山の意味をよく理解しておられ、心にくいまでの気配りを見せてくださいました。

下りは、予定では音無滝を經由して、三千院となっていたが、このコースは歩いた人が多く、バリエーションとして、大原ゴルフ場から古知谷寺へ出ようということになり、北向きの尾根を

たどっていくことにした。植林の新しい苗木を鹿から守るために尾根筋にはネットが張っており、それに沿って歩いていった。しかし、それも途中でなくなり、尾根をたどる踏跡もなくなったので方向を左にターンし、小さな谷を2つトラバースして、送電線の真下の伐採地に出た。ここからはゴルフ場までわずかであった。

古知谷で京都バスが運よく通りがかり、野村岐れまで3人が車を取りに行った。おだやかな天候に恵まれ、大木君を偲び、追悼した1日であった。

〔コースタイム〕

8：00壬生ー8：30出町柳ー9：20野村岐れ…10：25仰木峠10：40…12：06大尾山（昼食）

13：20…14：25大原ゴルフ場

〔参加者〕岡田，鷺見夫妻，伊藤，今井，辻，横井，吉田，三橋，渡辺夫妻，原田，方山，竹田，井上F1（ご子息），井戸，丸田茂氏（今井氏の友人） 以上18名。

〔追記〕

大木秀実君追悼登山において、有志で霊前にお供えをすることになりました。下記の方々から寸志を頂戴し、10月31日にお届けしました。ここにお名前を掲載させていただきます。（敬称略）

伊藤潤治	坂井久光	奥村弘信
津田実	横井襄二	辻久雄
今井勇一郎	楠とし子	三浦貞義
渡辺智生	木下嘉造	山元誠一
方山宗子	三橋勉	沢井佳三
川原傳治	原田加津子	上島弘子
若山裕孝	広瀬光太郎	岡本孝
大杉雅晴	和田良一	政道代
馬淵拓己	山岡昭弘	田中忠久
井上一夫	古市晶造	山口雅直
田村正弘	大塚孝之	出海洋三
大倉寛治郎	上島和彦	吉田武
岡本義弘	丸田茂	（今井氏の友人） 以上38名

〔御礼〕

この度は、亡夫の一周忌に際し、京交山岳部におかれましては追悼登山をなされ、またお供えをしていただきましたことに御礼申し上げます。亡夫もきっとあの世で喜んでいることと思います。本当にありがとうございました。

大木 延子

## 西（さい）山

岡田茂久

府県境シリーズも兵庫県境では、この西山を残すだけとなった。

まだ11月の初旬というのに昨夜は冷え込んだせいか、亀岡盆地は濃いガスで、老ノ坂から大枝側に滝のように流れ落ちている。今日は久しぶりに秋晴れの素晴らしい天気期待できそう。

ところが、折り悪しく丹波高原マラソンの日と重なってしまったのである。国道9号線は早朝から混雑が予想されたので、篠山経由とすることにしたのだが、早くも亀岡バイパスの出口で停滞である。霧のせいもあり、篠山と瑞穂町の府県境、国道163線の板坂トンネルまで2時間半もかかってしまったが、天王峠を越えると篠山側には抜けるような青空が広がっていた。

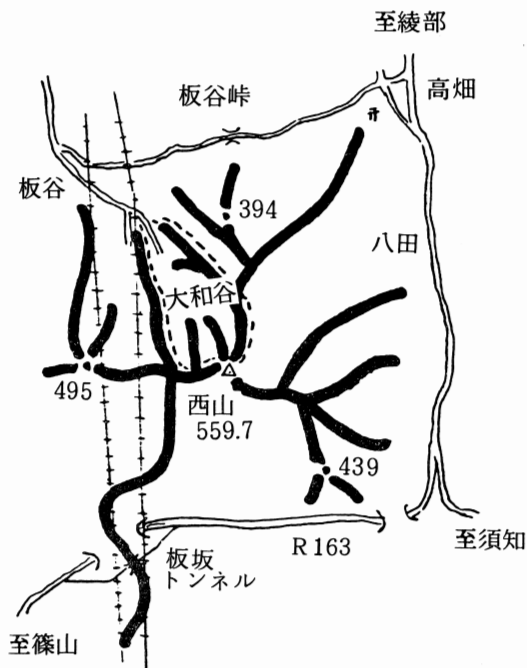
今回の目的である西山は、三角点のある山頂が国境稜線から外れており、正確に言えば府県境とは言いにくい山である。山容にしても雨石山から見ると標高も低く、いずれ何処かの山の帰りにでもの、ついでに山と考えていたが、どうも気になって例会に組んでしまった。一風変わったその山名のせいであったかも知れない。

西山とは、どこにでもありそうな山名であるが、2万5千図では「さい」とルビがふってある。

「さいざん」か「さいやま」か、西を「さい」と読むなら「さいざん」となるが、里山としてはどうもなじみ難く、

「さいやま」と呼びたいところである。地元ではどう呼ぶのか、西山の山懐にある板谷の集落で二・三人の古老に聞いてはみたが、大和谷の奥の山というのが名前は無いということであった。「西」から想定すると、西山の東に位置する瑞穂町の小野、大門の集落からの呼び名とも思うが、以前、雨石山の帰途に小野でもたずねてみたが、ここでも知らないという返答しか得られなかった。西は「さい」から想定すると、板坂峠の瑞穂町側の地形から、山が狭まった意からとも考えられるが、「やま」か「ざん」か気になるところで、結局今回も確認できなかった。

当初は板坂峠の旧道から国境稜線を登



ろうと考えていたが、時間短縮を考えて、送電線の巡視路が予想される西側の板谷からのルートを取ることにした。高畑の集落から板谷に越える板谷峠は、古い地図では破線路であるが、現在は立派な林道が越えている。板谷は6, 7軒の瑞穂町最奥の静かな集落で、道端にはころ柿がたわわに実り、稲刈りの済んだ山田に、籾殻を焼く煙が抜けるような群青の秋空にたなびいている。まさに秋いっぱいと言うところである。

集落を抜けて林道を詰め、分岐を直進して2本目の送電線の真下で栗林の中に車を駐車する。丸々と肥えた栗が、いがの中から顔を覗かせていたので拾い上げてみたが、すでに大きな虫食いの穴が開いていた。松茸山、入山禁止の札がちょっと嫌な気にさせる。

送電線の巡視路は歩きやすく、10分程で1番目の送電鉄塔にたどり着いたが、こちらの読み反して巡視路はこの鉄塔専用路であった。国境稜線の鉄塔まで続く巡視路は、1本目の送電線を経由するルートであるらしい。鉄塔には丹後甲60号の標識がかかっていた。引き返すのも面倒でそのまま鉄塔から支尾根を登ることとする。支尾根は粗林で所々途切れるものの、かすかながら踏み跡が続いている。尾根上部になると岩壁を交えるようになるが、たいした岩ではなく難なく登れるものばかりだ。標高450m付近の大きな岩壁の上は、展望が開けて気持ちのよいテラスである。踏み跡は無くなってもたいした藪ではなく、1時間で国境稜線の標高550mの独標に到達。そこから三角点峰には岩混じりの釣尾根を15分程であった。

三等三角点、西山頂上559.7mは、山名等を書いた標識がひとつも無く、なんともすがすがしい。ただ展望は多紀アルプス方面が開けているだけで、八ヶ尾山を真正面に見る。三角点の周りは6畳程の小さな空き地が開け、ゴミひとつ無い気持ちの良い頂上である。

居心地の良さに1時間半も長居をしてしまった。帰途は北に伸びる尾根を下ることにしたが、粗林を降り初めてすぐに大きな岩壁の上に出てしまいルートの誤りに気付いた。少し上から分岐する目的の尾根は藪が濃うっかりすると見過してしまう。しばらくは猛烈な藪であり、やがて大きな岩壁の上に出るが、ここは右側を巻いて下り、岩壁の途中のバンドをトラバースすると簡単に、元の尾根に乗っかることができた。歩き易くなった尾根を470mのこぶから左折、おいしそうな茸に誘惑されたが、笑いが止まらなくなってはと敬遠し、踏み跡の現れた尾根を駆け降って、駐車場所まで3分程の距離の林道上部に降り立つことができた。

登り口から周回して2.5km程で短いコースであるが、なかなか変化のある楽しいルートである。

時間的にはまだ早かったので、これも一度訪ねてみたかった篠山の笹見四十八滝にまわることにする。笹見四十八滝は案内に遊歩道を1時間の登りで全部回れるとあったが、実際の周遊時間は案内標識ほどでもない。しかし遊歩道とはいうものの結構危ないルートで、観光目的とするなら整備が望まれるところである。笹見四十八滝の名の割には、見るべき滝の数も水量も少ないが、遊歩道は多紀アルプスの小金ヶ嶽へのルートの一つでもある。

9 1. 1 1. 3

〔参加者〕

伊藤、大槻、渡辺、方山、横井、岡田、和田



〔タイム〕

壬生（8：00）～板坂峠（9：30）～板谷（10：00）～登り口（10：00）～送電鉄塔（10：20）～県境独標（11：10）～頂上（11：25～13：00）～登り口（14：00）  
篠見四十八滝登り口（14：40）～一の滝（15：05～15：30）～登り口（16：00）～  
壬生（18：00）

## 植 松 山（坂 根）

伊 藤 潤 治

植松山も登れた。去年の正月3日に「日本山嶽志」で、船越山を登った折、千合地峠で三橋君の“植松山ですね”という声で眺めて以来、気になっていた山である。

秋の長雨予報を無視してでかけたのに、何ともうけ日和。中国・山崎ICから国道29号線を北へ、黒尾山の裾を巻いて波賀町まで、有賀で左折して斉木谷沿いに上り、811.3m（荒尾点）南の町界稜で千種町に入り登山口のある岩野辺に下った。

ヤナ谷を内海の人に教えてもらったが廃道であり、「すいげつ」前を北行すると、林道は左岸で標高500m位の地点まで延長、終点には地元車と京都ナンバーの2台が駐車していた。

そこから生茂っていたが、踏み締めた石ころ道がはじまって、小丸太を架けた板谷、ちょっと足元から眼が離せないで、右岸に変わると登りになって、ほとんど直進の急坂が続き、歩き始めて1時間、美しい溪流に出た。

左岸に渡るが、よい憩場である。すぐ上流に千種町ご自慢の「小河内の滝」があり、黒い巨岩壁に白龍が夫婦の如く躍っていた。

滝道から戻った先で、右に入っているテープがあり、少したどったがトラバース150mほどでもとに引返した。ひょっとすると旧道であったかも知れない。

わずかで右岸に移れば、早くも源流近いか和やかな樹林帯。細い流れをまたぎ東行に変わると3、4mに育ったきれいな並木道、土の色も香いたつ新鮮さで、整然たるのには、眼を見はった。

その爽やかさに腰を下ろしていると、おしゃべりの中年男女3人組が下山してきた。きのう日名倉山登頂とおっしゃった京都ナンバーさんで、また山頂にお1人いらっしゃる、や、右へ振って登り詰めると山頂ですなど、話してまだ予定があるらしく急いで立ち去られた。

しばらく見送ってから、緩やかな登りにつく、間もなく枯葉剤によるのか茶っばい斜面が展開していた。

最高点を先に踏むつもりで稜線に達したが、びっしり茂っており気が変って、藪の裾を縫い植松山に上ってしまった。

「植松山」「高野山真言宗石原山福海寺、福聚寺跡地」標や供物を並べた小塔はあったが、三角点は一見になく、思わず草の根分けてもと緊張した。

三角点に迎えられるのが登頂の常であるため、このように顔が見えないと、どうしているかと、その安否が気づかれるのである。

間もなく勢馬君が探してくれ、お手柄・お手柄と歓声があげられたのに、ふと、三橋君の同調がなく、驚いた。理由は、割愛するつもりでいた最高点の代登を彼はやってくれていたのである。

彼を迎えて3名は、無垢で秘仏の如きⅢ△1,191mへ、感動の万歳を捧げただけで、そっと大切に秘めておいた。

山頂は東が全開で遠望もすばらしかった。けれども地勢図がなく、確かなのは黒尾山だけだった。ところで京都ナンバー殿は、山頂にお一人お出である、とおっしゃっていたが、誰にも会わなかった。どうやらその人は、この仏跡の参詣者で、旧道からの登山であるようだ。

下山は、Ⅳ△をもつ西南尾根から駐車点をめざし、Ⅳ△874.4m、岩野辺点は稼いだものの、左へ寄りすぎに気づいた時は手遅れで、降りてみると駐車点へ15分の地点。惜しくも有終の美を欠いた。

兵庫の山やまに、加藤文太郎（1905～1936）氏は、熱烈な郷土愛をもって、氷ノ山に兵庫槍・三室山に兵庫乗鞍・後山に兵庫御嶽・扇山に兵庫立山・青ヶ丸に兵庫鷲羽・鉢伏山に兵庫大天井・赤谷の頭に兵庫焼・仏ノ尾に兵庫白馬の愛称が捧げられている。もし植松山をこれに倣ってみるとすれば、最高点と三角点を備えているという共通点から、許されるならば、兵庫常念の称を献したいと思っている。

1991. 9. 23 三橋 勉・勢馬 彰・伊藤潤治 登頂

## 豆ひざ栗毛 （京都西北部）

伊 藤 潤 治

何を血迷いましたか、このところ京都府が提唱した「ふるさと自然観察路」の記念品ほしさからスタンプラリーに少年の如く夢中になっています。

この日は亀岡市馬路町のオニバスと、ついでに竜王ヶ岳と紅葉山を歩く予定のところ、「地形図や京都の自然200選（植物部門）」を見ている間に、「△104メートルと国分寺の乳イチョウと車塚古墳」を追加することになって、それに津田実さんが、「ナビゲートならわてにまかしときなはれ」と力づけてくれました。

千代川駅でスタンプをもらい、大堰川に架かる月夜見橋は、きれいなタイルの橋面に星座が描がかれていて、ちょっと天空を征く気分が味わえてなかなかよろしい。

次は不案内の国分寺の乳イチョウの所在。折しもご散策中の古老をつかまえて、寺は田圃の中にあって荒廃のまま、だが乳イチョウは健在。とお教えを受け、さらに“歩いておいでか”それはのお励ましをいただいて、

宿なき人の如く

いや遠くわれは歩まん。

恋人と行く如く心うれしく

「自然」と共にわれは歩まん。

(ランボー)

馬路(うまじ)を抜けて三日市に行き、三角点の所在をそこの農家で尋ねると、どんな品かは存じませんが、時折り学生さんがおみえになるのは、あの竹林の栗の木の辺りと指さして、またそこは作物で埋まった畑の上、でも畑の通行も許して下さった。その人は檀ふみを連想させる、心優しく手も美しい方(註・隣人のつぶやき)でした。

畑から孟宗竹の丘に上ると、航空標識があった。三角点もあったが、そのⅢ△104メートルは、航空標識で釣る案外なお茶目。しかもしぶい標石などに感動しました。

この感動をご報告に上って、ここでさらに国分寺の乳イチョウを詳しく聞かせていただき、すぐ横を走る産業道路を東南行、七谷橋をすぎ勢いあまって、北折点を直進。あれほど講義下さったというのに、うわの空であったのか。左折点を右折すると、間抜けた「左こくぶんじ、こんびら山」の碑、これはこんな奥でのうて道しるべらしい位置に、でしゃばってほしい代物です。

国分寺は荒れはてた三間三面の本堂と門と鐘樓など。乳イチョウはその境内にそびえる見事な巨樹。でも、さきの台風19号に大切な枝を折られ、傷口が痛そうでした。樹下には熟れた銀杏が足の踏み場もない有様、少し記念にと拾いザックに詰めたのは、どえらい失敗でした。それに記念写真と思った時、キザなのが若い女性ときて、車を門前に横付けして知らぬ顔。おかげで国分寺は写真なし、内弁慶のかなしさです。

美しく稔った稲穂の汎打つ田圃道を国分の街道に出て、右折して千歳町出雲神社前で左折すると車塚古墳についたが、このわずかな平地の行程、もう晩秋というのに太陽からの暑気がきびしいため、汗だくになったりしていささか辛かった。

車塚は前後の長径43間半・後円の径22間半・同高25尺・前方端の幅25間・その高さ20尺内外あり、両丘の均衡よく、二段筑成の痕をとどむ(北桑田郡誌)が、緑草で被われた優美な前方後円墳で、すっかり感動して昼食は草丘におどり上っていただいたのでした。(一間は6尺、約1,818メートル。一尺は1メートルの33分の10。)

上機嫌で本命に向う途中、いわくあり気な老松の森をのぞけば、石仏像・名号碑・三界万霊碑の並ぶ、かつては刑場らしく桑原桑原もの。とは。

平の沢の池は上・中・下の三面で、下池は見渡すかぎり菱ばかり。サギの白い群れは中池についた時目にしました。ここでカワセミを見られたと喜ぶ青年と会い、オニバスを尋ねて、わずかしかなようです、という返事にもがっかりしたが、あきれたのは、中池の湿原をダンプが土を運んで埋めていたこと。何という暴挙でしょう。自然破壊を目のあたりにさせる自然観察路なんて、前代未聞では。

上池はと行けば、水を抜かれてむなしき泥底。その隅っこの水たまりにサギが少し群れているのみ、いやはや大きな期待外れでした。

やがて一本立てたくなると、うまい具合に自販機を備えた旭町支所、叡山ではこうは参らぬと大満悦。その結構のあと。いよいよ竜王ヶ岳にかかるべく念のため問えば、ああ、既に松茸山。されば師走に再来せん、いざ帰りなん、の退陣となりました。選んだ帰路、三俣川左岸道で丹波栗が拾え、大堰橋西詰を北行、竹林を背に亭々たる「黒住の大ケヤキ」に感嘆、旅の打上げを始めようとしている時、話好きの古老が現われて、それは行えなかったが、めったに聴けない話で棹尾を飾ってもらいJR八木駅に到着して、まず豆ひざ栗毛第一巻は上りになりました。

宮後 忌

## 菩提の種を蒔く日かな

伊藤 潤 治

ついこの間の「出来事」であったようなのに、宮後正樹君が逝って来年は10年になる。

「一生のうち人は数知れぬ人と会い、数知れぬ人と別れるだろう。しょせん人間の生涯は人と会い、人と別れることの通し狂言のようなものである。(阪本 勝)」。

つまり「生者必滅会者定離は浮世のならひにて候。(平家十)」ということなのだが、いくらなんでもこれが宮後君のさだめであったとは、あまりにも気の毒でならない。義侠心が強くて優しくかった彼を頼りとしていた者にとっても、とぼっちりを食い支えを失う不幸をひっかぶったのである。

取残された者にとっては、せめて年に一日くらいは、彼の影を求めて追慕してみたい、と思うのが友情であろう。

1983年は、彼の報告「へそのない山(第216号)」こと、若杉山(奥津)のへそ探しを畑照人君とでかけた。けれども苦勞の甲斐ものう不明だった。これを国土地理院に問うと、そんな筈はございません、との返事なので、

1984年、再度取組み隅なく努力を払ったが、ついに探しようがなくなって、若杉山は「へそのない山」として、打ち切ることにした。

1985年は「妙見変じて鉢となる(第113号)」以来の宿題になっていると聴いていた、妙見山(村岡)に想いをこめて登った。この日の妙見山は、まるで宮後君の笑顔がそのまま空を被っているようであったのが忘れられない。

去る者は日々に疎し。という、たしかに痛みは日々に薄らぐ、けれども登山者であることが幸いするのか、「山を想えば、彼がいとおい」。この気持はほとんど薄れていない。

1986年は、高円山(桜井)に、三谷洋平、三谷寿枝子の両君と小雨の中を登って、しのんできた。

ここまでは、彼が最後の登頂「美濃中山(大垣)」を銘記すべく、誕生日でもある6月17日に行動してきたが、忌とは命日に追憶のために修する行事であり、1987年からは命日の10

月3日に行うように改めた。

その1987年は、山下周道・塩田愛雄両君とサブカゼ（亀山）を登り、いろいろ彼の思い出にふけてきた。

1988年は、猿の群れがかわゆいという情報を、彼の申歳生れに結びつけて、滝ヶ岳（白川村）を選んだが、日の目を見ずに眠ったまま。

1989年は、彼が惜しみなく情熱をそそいだ、台高を臨む木棍山（高見山）を計画した。

これが思わぬ支障のため、残っている。滝ヶ岳に続いて木棍山も残り、やっと無理に気付いた。それは10月3日が氏神のずいき祭と重なっている上に、ちょっと山らしい山は年齢からでも、既にあさる身ではない、と。

それで1990年は、山下周道君と神山（京都東北部）に登った。あと妙蓮寺の墓前にめぐらして、心から冥福を祈った。

この1991年は、木原滋・中島涼・津田実・山下周道の諸君と、吉田山（京都東北部）に上り、にぎやかな追悼のあと、打ち揃って妙蓮寺に参り、墓石を磨き、ローソク・線香を供え、般若心経をとるなど一同、こどもも冥福を祈ったのであった。

1991年度は、こんなにお集りねがえて本当によかった。

「死せる者 死せると思うな、  
生きている者のあるうちは、  
死せるもの生きん  
死せるもの生きん

ゴッホ」

1991年10月24日

## 【個人山行】

## 越後の山旅

大槻雅弘

米山Ⅰ本△992.6m→浅草岳Ⅰ本△1,585.5m→弥彦山Ⅲ△585.6m  
→多宝山Ⅰ本△633.8m→松ヶ崎Ⅰ本△24.5m→松平山Ⅰ補△953.9m  
→日本平山Ⅰ本△1,081.1m

北越雪譜を著した鈴木牧之の越後の情景や、日本山嶽志を編んだ高頭式の越後の地は、京の町から遠く、今まで、行きにくい山域の一つであった。その地へ、今回思い切って4日間の、小さな山旅をすることが出来た。

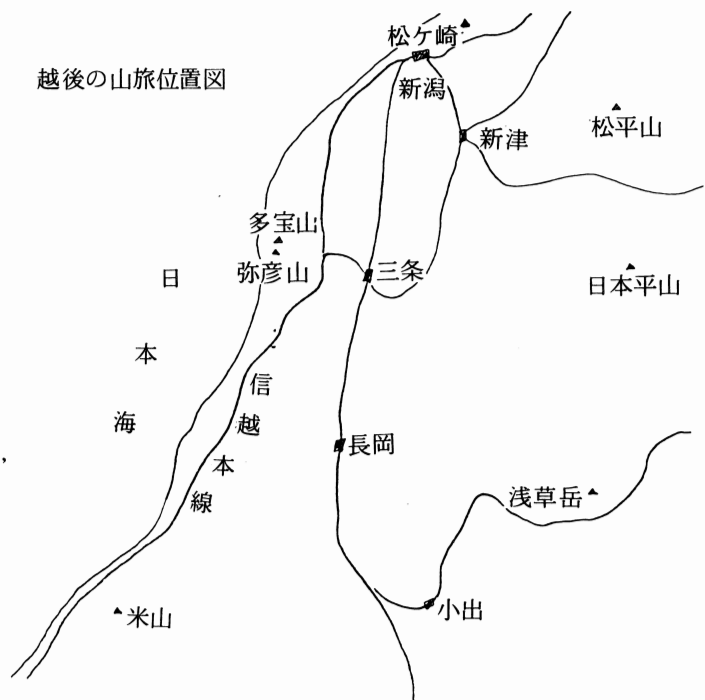
最初に米山を目指した。日本海の北風にさらされた寒村を描いていた越後と違って、鳥ヶ首岬から米山を遠く小さく見たときは、そのイメージも吹き飛び、明るい日本海の中に浮かぶ米山の山姿に見とれていた。越後で米山さんを知らない人はいない。あの三階節で有名な、「米山さんから雲が出た。今に嵐がくるやら、ピカラシャンからトンガラリと音がする」と唱われた山である。江戸時代の画家、谷文晁の日本名山圖會の「天・地・人」の人の部にも描かれ、昔から地元では愛着をもたれている。

我々は、欲張った計画であったので、林道を車でつめられる所まで入り、そこから歩いた。登山道は整備されていて、頂上には立派な小屋もあり展望は文句なし、1等三角点本点を自慢出来るだけのものはあった。360°遮るものなし、40km先の佐渡ヶ島を初めとして1等本点の位置がほぼ確認出来た。約1時間程の登りで達する項は712（和銅五）年泰澄大師が越後を通った時に夢のお告げで薬師如来にあったという、米山薬師が祭られている。祭日のことでもあってか、地元の人や山好きの志が多く登っていた。その日次の目的の山へ向かい、台風の影響なのか、木々が唸る浅草岳展望台で一夜を明かした。

山の朝、風は少し落ち着いていた。雨も降っていない。だが目指す浅草岳の頂はガスっていた。ネズモチ平で車を置き登った。頂上付近は湿地帯も多く、水捌けの悪い道であった。北の国、待望の浅草岳の1等本点の展望をとと思ったが残念ながらガスで視界0。「京交山岳部大槻雅弘様」と案内板の横に伝言がある。何と前日、K嬢がメッセージを残していったもので、遠い越後の山で思わぬ出来事であった。頂上でのセレモニーを終え下ろうとすると5cm程頭を出した1等の三角点がもう一つある。数多い一等三角点の山で、2つも一等三角点があるのに驚いた。めずらしい2つの三角点を撮って下山することにした。

この後、日本三彦山と言われる兵庫の雪彦山、福岡の英彦山、そして残る一山新潟の弥彦山へと向かった。平安神宮のものより大きいであろう鳥居をくぐり弥彦山の駐車場から小雨の中を三角点へ登った。神社までは誰でも訪れるが三等三角点の弥彦山までは、殆ど登る人はいない。振り返れば多宝山がガスの中に浮かんでいた。弥彦山から下り一度車に乗ってから、多宝山の一等へ登り着いた。ここは天測点が三角点と肩を並べていた。

山はもう夕方、新潟の町を通り抜け暗くなった松ヶ崎一等三角点



を確認して、小雨降る松平山山麓のキャンプ地に着き2夜目の夜を過ごした。

明けた空は雨であった。どうも台風の影響か、もう一つ天候がすっきりしない。予定のコースは五頭山から松平山へ縦走する予定であったが、小雨なので松平山のみコースに変更した。魚止滝から一汗、二汗かいた頃に雨も止み、山葵山に着いた。5～6つの登り下りを繰り返す頃には陽も斜し、青空も広がり頂では濡れた雨具を乾かすぐらいになっていた。ゆっくりと、三角点で時間を取り展望を楽しんで下山にかかった。その途中、東京の知人に逢い再会を喜ぶ。

2時過ぎに、今夜の宿泊予定の民宿へ着き、久方振りのフロに入って汗を流した。近くのダムは、数日來の雨で増水した水を放水し、赤茶く濁った水がものすごい勢いで下流へ波高く流れていた。

3日目の朝。今日も雨。越後の秋は雨ばかりか。台風の余波か残念ではあるが、予定通り本日の目的地日本平山へ登る。

長い道程で約8km5時間の登り。これでもか、これでもかというように山腹を巻きながら徐々に高度を稼ぐ径にうんざりする。雨の中『キチガイ』ではなかろうか。イヤ、本当の『山キチガイ』だ。雨ニモマケズとかいう詩も、たしか東北の詩人であったように思う。そして風ニモマケズ我々は6山目の1等三角点に登りついて鉛色の空からの雨を受け、思いっきり万歳をして越後の町を後にした。

1991年10月10～14日 同行者 三橋勉他2名 日本平山(坂井久光, 服部正義, 大槻貞徒)

【個人山行】

91:10:29～30

## 奥秩父 国師ヶ岳 I △ 2,591.8 m から 金峯山 III △ 2,595 m へ

津田 実

「お父ちゃん秩父の山、行くサカイ用意しときやー」「何日やー」「29と30やー」例の如く珍問答の揚げ句。慌てて本屋に駆け付けインスタント、ガリベン、甲州は峰越林道へ車を駆る。

焼山峠で一服、林道工事の人達に「京都から」と珍しがられ、柳平の放牧場で「此んな山奥に牧場が」と驚き。紅葉真っ最中の広葉樹林帯を抜け、左に朝日岳のすざましい崩落と五丈岩が見える地点、六本栖峠付近から針葉樹林帯になり、今まで快調に走った舗装道路が俄然悪路に変身。何かにつかまらなさと振り落とされそうになった。

その洗濯板林道に腰を抜かし、道が良くなったと思うと其処が大弛峠だった。四輪駆動車だから登れたが小生のポンコツなら、底が支えて通れなかつただろう。京都からの長旅も漸く終わった。すぐに登山服に換える。

大弛小屋の前を抜けると急登になり、「夢の楽園」の標識を右に見て、ドンドン登り、甲武信岳への道を左に送ると催かで急登が緩くなり前方に国師ヶ岳が見えてきた。コメツガ、シラビソ、トウヒ等の樹林帯を抜けると突然目前に大岩が出現した。其処が国師ヶ岳一等三角点だった。

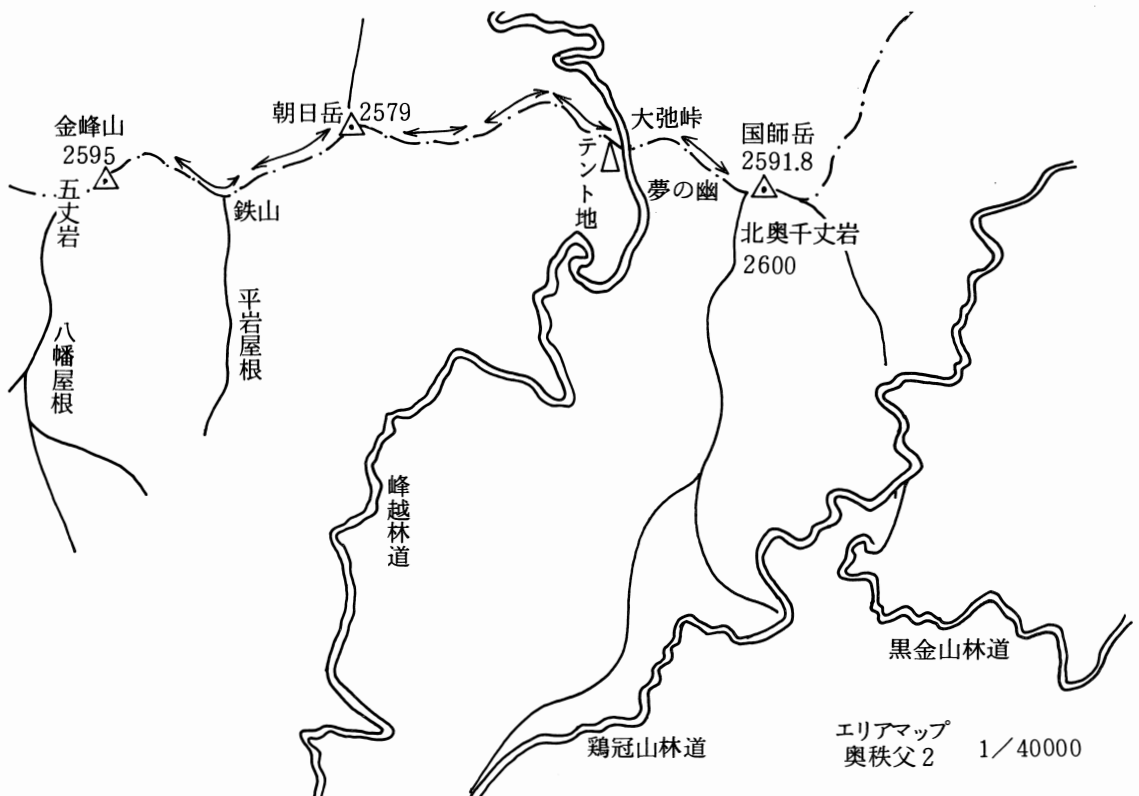
案内書によれば夢窓国師の名からきているとあったが、富士山の麗姿と周囲の豪快な景観に茫然自失、“心頭滅却”。暫くは写真を撮るのも忘れてしまった。

こんな遠いところへ来て、すぐに下山は余りにも勿体なすぎる。と、奥秩父の最高峰、北奥千丈岳 2,600 m に向かう。遠く南アの峰々や、秩父連山を望見。夢の楽園を回遊して、峠に降りる。満天の星のもと心ゆるせる友と傾ける一献、山の語りも何時しか夢のなか。

翌日は金峰山へ向う。大弛小屋から西方へ針葉樹林帯のなかへ入る。此処も丸太の階段で高度は稼げるが昨日の疲れか、起き抜けの急坂は体にコタエル。緩ゆっくり登って行く。朝日峠は深い樹林のなかで峠の標識がなかったら見落とすところだった。

小さなコルを越えて少し登ると独標朝日岳 2,581 m の標識が建っていた。今日は富士山に懸る雲が雨の近いことを知らせてくれる。前方に五丈岩が招き、その向うに南アの峰々が雲海の上に浮かび、後ろから前国師が見守っている。小憩！鉄山を越えるとケルンがヤタラに積まれた広い台地にでた。仏法に言う賽ノ河原とは此のようなところか？石室のなかに地藏さんが風を避けていられた。此の地点から五丈岩はみえない。累々と重なる巨岩の上を渡っていくと岩陰に金峰山三等三角点が小さく蹲っていた。

先着の中年女性二人と情報交換、雲上の宴（ウタゲ）はまた一興あるもの。南アや中ア、遠く





北アの山々が海上に浮かぶ小島ようだ。時折吹く強風も付近の巨岩が防いでくれ、金峰山は暖かく迎えてくれた。遥かな京都から来た甲斐があった。

食後、吉田君と大倉君は五丈岩にアタック。小生も登攀を誘われたが見学を決め込む。登りは緩ゆっくりきたが、帰りは疾風迅雷。登りの半分足らずの時間で大弛峠に降りて仕舞った。

強力の助っ人のお陰で未知の奥秩父の山を登らせて頂け、全山の紅葉と富士山と信州、秩父の山々が拝め、更に筆舌につくし難い見事な溪谷に心を奪われてきました。

吉田さん、大倉さん、ありがとうございました。

## 【個人山行】

# 四国二泊三日の山旅

## 洛西営業所 服部正義

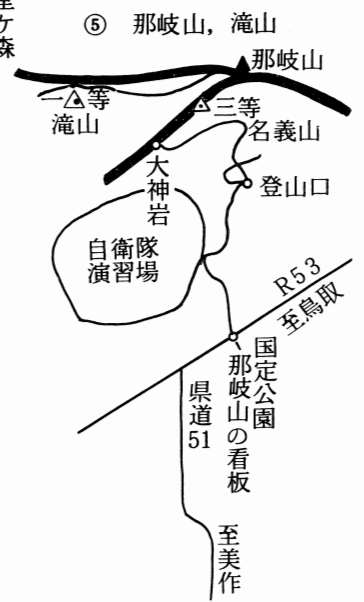
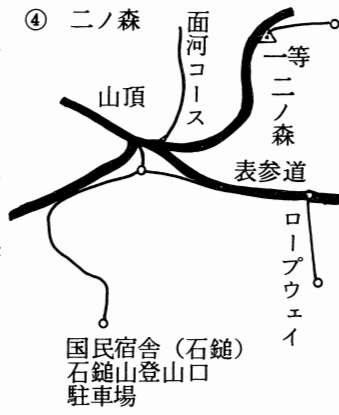
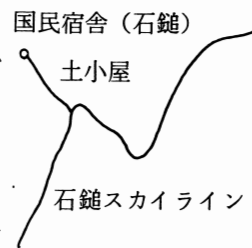
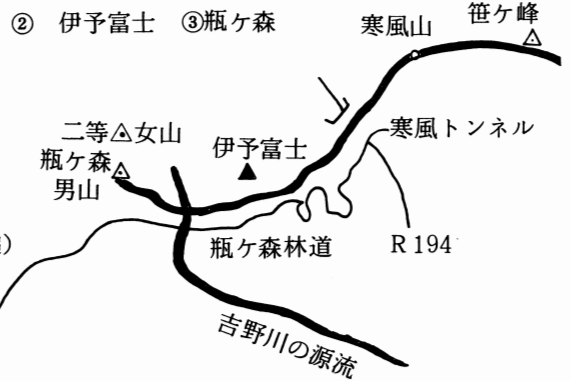
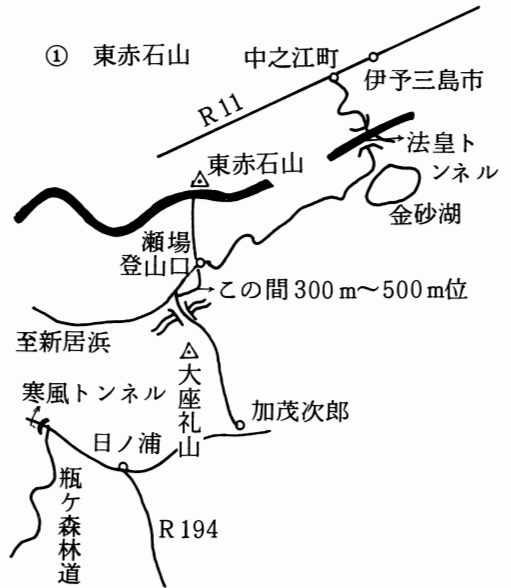
10月29日午後勤務PM.10:00終了後、一等三角点二ノ森(1,929m)本点に向って車を走らす。玉野市から国道フェリーで60分仮眠して高松に上陸してR11坂出市、川之江市を通り伊予三島市中之江町から別子山村の標識で左折して法皇トンネル、金砂湖を通過し東赤石山(1,707m設石なし)の登山口、別子山村瀬場ひうちなだに到着。草々登山開始、右側に大、小の滝が有り紅葉も美しく70分位いで山頂に着く。燧灘、大座礼山(1,588m)前回登った一△笹ヶ峰ささがたわが顔を出していたがほかの山はガスで見えない。写真をとりに下山。雨上がりの為、大ミミズで靴の踏み場もないほどのミミズ、これを見て自然な所だと感じ登山口に戻る。登山口から約500m位いで高知県大川村に入る県道で加茂次郎、日ノ浦でR194本川村に出て、寒風トンネルから左折し瓶ヶ森かめ森林道に入って伊予富士(1,756m設石なし)に登山、林道に戻り瓶ヶ森(1,896m二等三角点)に登山、男山女山からなり二等三角点は女山にあり、女山の山裾がなんと徳島市の紀伊水道に注いでいる吉野川の源流がありました。頂上からの展望もよく、夕陽に染った体を写真にとりに下山。

明日10月31日は一△等本点二ノ森登山だ。今日の内に土小屋まで行き国民宿舎(石鎚)登山口の駐車場で夕食、ガスでお酒を温め10月31日、11月1日の予定を立てる。そしてシュラフに毛布を入れて寝る。

10月31日、快晴。国民宿舎も満員、紅葉も美しく宿舎横の登山道(4.6km)再度(今回は西ノ川の石鎚山(1,981m)の登山、結構登山客も多い。山頂の神社で山の安全を祈願して一等三角点二ノ森(1,929m)に向う。山頂から0.5km下った所、面河登山コースを少し下って注意していないと見落としそうなササの中に二ノ森方面の登山道を見つけ、山裾を左手に石鎚山、正面に二ノ森、堂ヶ森を見ながら50分位いで一等三角点本点二ノ森(1,929m)に着く。天気もよく四国の峰々を遠望しビールで乾杯、石鎚山をバックに写真をとりに30分の休憩をとり往路下山、紅

葉の美しい石鎚山スカイラインから、面河溪を見学，もう一回余裕があれば三本杭（滑床山一△等），篠山登山出来るが，今回はあきらめて面河村，川内町，R11から高松国道フェリーで仮眠，休憩しながら岡山，玉野市まで戻る。

11月1日，AM. 5：00。もう一山位い登って帰ろうと地図を見て，那岐山，一△等滝山と決め，R30，県道27，山陽町，R374，美作（湯郷）温泉から，これから登る左手に滝山，右手に那岐山のポリウムある山が見え，県道51で奈義町に入り，R53に出て国定公園那岐山のキャンパで左折して登山口に車を走らす。標高680mの林道に車を駐車して，草々登山。AM7：00に歩き始めるとドーンという音でびっくり，あとは小銃の音，演習場があるのは知っているでも気持ちが悪い。大神岩まで35分，そこから12分で名義山（三等三角点）に着き，下って登れば避難小屋のある那岐山（1,240m）設石無しに到着。天気も良好で中国地方の峰々をながめて休憩と写真を取り，一等三角点本点滝山（1,197m）に向い，70分位いで滝山に着く。頂上から三国山，泉山，星山，大山もぼんやり見え登ってきて良かったビールで乾杯，写真を取り往路下山，美作町まで戻り宮本武蔵生誕地の見学と延暦寺座主円仁法師こと慈覚大師が1200年前に行脚された際，美作の風湯郷において傷ついた白鷺の後や追い発見されたという名湯美作温泉に入湯して，美作ICから中国ロードに乗り無事PM6：00に亀岡の自宅に帰った2泊3日の山旅でした。



# 例会報告

例会 No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1851	比良シン岩 リトル比良	10月5日 ～6日	くもり 後雨	大倉寛治郎 吉田武	吉田F2, 大倉 F1, 岡本, 台 川, 松田, 田村 西尾, 山岡, 原 田, 津田, 姫路 岳友同人会合計 21名	(別稿詳報)
1852	小野村割岳	10月10日		津田実	大槻, 鷺見	(次号詳報)
1853	大木秀実君一周 忌追悼登山 仰木峠から大尾 山	10月26日	晴	井戸澄夫	全18名 (報告書で記載)	(別稿詳報)
1854	府県境シリーズ 西山	11月3日		岡田茂久	大槻, 和田, 渡辺 方山, 横井, 伊藤	(別稿詳報)
1855	山ノ辺の道	11月4日		奥村弘信	津田F1, 原田, 三橋F1, 松井 その他2名	(次号詳報)
1856	山の会との合同 登山 風越山	11月9日 ～10日		岡田茂久 大槻雅弘	吉田, 三橋, 渡辺 鷺見, 和田, 方山 津田, 横井, 今井 (京都山の会) 11名	(次号詳報)

# 部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
植松山 (坂根)	9月23日		伊藤潤治, 三橋勉 勢馬彰	(別稿詳報)
豆ひざ栗毛 (京都西北部)	10月11日		伊藤潤治	(別稿詳報)
宮後忌	10月24日		伊藤潤治	(別稿詳報)

目的地	月日	天候	参加者	記事
越後の山旅	10月10日 ～14日		大槻雅弘, 三橋 勉 他2名	(別稿詳報)
奥秩父, 国師ヶ岳, 金峯山	10月29日 ～30日		津田 実, 吉田 武 大倉寛治郎	(別稿詳報)
四国 2泊3日の旅	10月29日 ～31日		服部正義	(別稿詳報)

## 雑 報

### ▲▲▲ 11月の集会

11月11日(月) 場所 厚生会館4F大教室

出席者 (本局) 岡田, 和田, 方山, 井戸

(梅津) 吉田 (洛西) 服部 (OB) 奥村, 横井

例会報告, 個人山行報告等

### ▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

11月号 京都山岳, 比良山岳, 青嶺, 一等三角点, 趣味の登山, 山友, 近畿山行, 北山, 木雞

### ▲▲▲ 京都府山岳連盟

- ・平成3年度積雪期指導員研修会・冬山講習会

実施期日 平成4年2月4日(土)～11日(火)

場 所 南八ヶ岳(赤岳鉱泉小屋バース)

費 用 29,500円

参加者打合せ会 平成4年2月5日

備 考 参加希望者は吉田(☎654 梅津)まで。

公認指導員検定およびC級指導員講習も実施します。

- ・野沢温泉スキーバスツアー

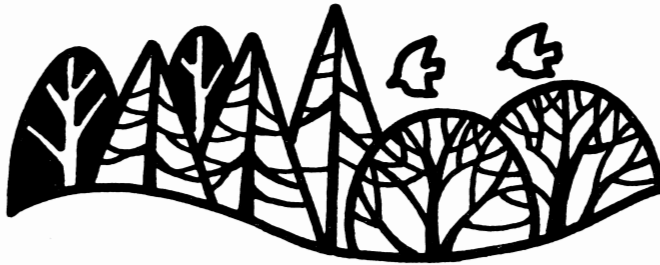
日 程 平成4年1月24日(金) 夜発～28日(火) 早朝帰着

宿 舎 野沢温泉麻釜の湯 民宿マルトミ

予定人員 先着40名

費 用 35,000円

備 考 申込みは吉田(☎654)まで



HIROSHI HASEGAWA'S SHOP  
 FOR MOUNTAINEERS & BACK COUNTRY SKIERS  
**THE LOG CABIN CO.**  
 KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター  
 厚生会指定  
**サンコークラフト**  
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
 TEL (075) 771-3442

帆布・濾布  
 テント・シート  
 雨合羽

**木村工業有限会社**

京都市中京区ミブ車庫前  
 TEL 801-5331 (代)

西大路営業所  
 下京区西大路七条下ル  
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店  
**今、アウトドア派大集合!!**

●登山用品はもちろん、  
 注目のスポーツ  
 カヌーをはじめ、  
 ひと味違う充実の  
 品揃えは必見のもの!!

**ビッグホリイケ**

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
 ☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンプ・クライミング  
アウトドアウェア・US旗出品  
ポータブルカフト用品

**Mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0546  
●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ

### 自費出版のススメ

自分の文章が活字になる喜びを味わってみませんか 詩・随筆・自分史・社史の編集から印刷・製本までプロの小社がお手伝いさせて戴きます

### (株) 北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)  
TEL (075) 791-6125(代)  
FAX (075) 791-7290



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

## 株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区<sup>あけず</sup>不明門通六条下る西側  
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成3年12月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部